

種貸社

種貸社は、初辰まいりの最初の場所にあり、4つの神社の中で最も古い神社である。平安時代（794-1185）初期には、朝廷から資金援助を受けた神社のリストに記録されている。元々は住吉大社から2キロ離れた場所にあったが、16世紀に火災に遭い、移されたという。

この神社には、稲作、農業、商売に関係する神道の主要な神である稲荷の様々な姿の一つであると信じられている倉稲魂命（うかのみたまのみこと）が祀られている。倉稲魂命は特に穀物に関連しており、「種」と言う意味からも種まきや豊穰との強い結びつきがあることから、事業を始める人や子宝を願う人に人気がある。種貸社への参拝は、「初辰まいり」の一環として、事業を成功させるために必要な初期の投資や努力を意味している。

種貸社では、受胎や出産のお守りとして、子供を抱く母親の姿を描いた小さな土偶を販売している。みのり参りを行う参拝者は一粒の粃種を手に入れることができる。種貸社は、初辰まいりの参拝者を対象に「辰の日」の午前6時から午後3時30分まで開いている。お布施は1,100円からとなっている。